

造機部長

0004

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

三月三日
 公報

起案第一號

大正十一年二月廿二日起案
 起案者 捺印
 三月二日發付
 發付掛 捺印
 發付後起 案者捺印

五本 11.2.28 受接
 二本 11.2.25 受
 本 11.2.25 受

軍務局一課
 吉ノ二番

大臣

次官

參事官

副官

主務

人事局長 第一課長 局員

軍務局長

經理局長

艦政本部長

總務部長

第五部長

第一課長
 第二課長
 第三課長

大正十一年三月三日

各府守府司令官先

送致部長會議ノ件

發送
 番號

官房第七二二號

軍務局

0005

三月二日

来月五月八日迄約七日間、豫定シテ、造機部長會
議開催委員三廠並廣支廠造機部長ヲ以テ
當日午前八時三十分迄ニ本省ニ召集セシムル
右列会ス

0006

人事局

第六第一一六九號

大正十年二月二十一日

海軍艦政本部長岡田啓

臨時海軍大臣事務管理

内閣總理大臣子爵高橋是清殿

造船部長會議ノ件

東五月八日ヨリ約一週間ノ豫定ヲ以テ造船部長會議開催度候條各工廠並廣支廠造船部長ヲ五月八日午前八時三十分迄ニ出省候様召集相成度右具申ス

終

(富井 稿)

海

軍

模造半葉十三行單紙



官房

局奉入 11.2.22 第二

0007

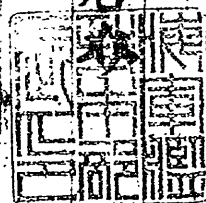
供覽

務局

艦本機密第二八七〇號

大正十一年七月二十六日

海軍艦政本部長岡田啓



第一課 海軍大臣男爵 加藤 友三 郎 殿
第二課 大正十一年造船部長會議ノ件

本年三月三日官房第七二三號ヲ以テ召集相成候頭書會議ハ豫定ノ如ク去五月八日ヨリ全月十五日ニ且リ開催本職主宰ノ下ニ各關係諸官列席當部諸問事項十七件各工廠提出附議希望事項九十件長崎神戸造船監督官提出ノ議案二十件及目下ノ時局ニ對應スル爲ノ特別審議事項九件計百三十六件ヲ議了スルト共ニ各列席者間ニ於テ隔意無キ意志ノ疏通ヲ鑑ケ本會議議期ノ目的ヲ達シ得タリト相認メ候
茲ニ企會議ニ關スル書類一括添
右報告ス

海軍

官房受

五月廿六日

大正十一年七月二十六日

0008

大正十三年五月三十一日附艦本機密第一

追テ特別審議事項ノ議事ニ關シテハ去五月三十日附艦本機密第一

九四七號ヲ以テ報告済ニ有之候

別冊

大正十一造機部長會議經過概要 一部

全 會議艦政本部諮問事項及右ニ

對スル各工廠答申並全決議 一部

全 會議各工廠造機部附議希望事項

及之レニ對スル他ノ意見並全決議 一部

全 會議ニ於ケル監督官打合セ會經過概要 一部

全 會議ニ各工廠ヨリ提出ノ諸表類 一括

添附

「終」

海軍

(附録)

0009

大正十一年造船部長會議經過概要

一 會議期間

大正十一年五月八日ヨリ、本月十五日迄

一 召集

各工廠並廣支廠造船部長ニ對シテ、大正十一年三月官房
第七三號ヲ以テ參列方訓令

廣支廠機關研究部長ニ對シテ、今年四月七日、艦本第六三三
號ヲ以テ、艦政本部長并廣支廠長宛參列方照會

尚安住(長崎) 網島(天取) 西造船造兵監督官乃小野(神
戶) 造船監督官ニ對シテ、打合々爲シ、五月十日艦政本部長出

頭本第一卷五月二日
頭本第二卷三月一號
頭本第三卷三月二號
頭本第四卷三月二號

會場

海軍省內第三會議室

列席者

全會期、通上列席元諸官

艦政本部部長 長

艦政少將 增井敬次郎

兵工廠造機部長

機關少將 風間高次郎

廣支廠造機部長

造機少將 齊藤 真

機關少將 大内安七

機關少將 青木洋一

横須賀工廠造機部長

造機少将 吉田仙之助

艦政本部々員

造機大佐 稲川與一

舞鶴工廠造機部長

機関大佐 牧野豊助

艦政本部々員

機関大佐 杉政人

艦政本部々員

機関大佐 末常共外

艦政本部々員

造機中佐 齋見周保

艦政本部々員

造機少佐 松田竹太郎

研究機関開示審議、除、列席者

廣文殿機関係研究部長代理

同部々員

機関中佐 風間豊平

監督官、打合、會、除、列席並諸官

造機造船監督官

機関大佐 安住省一

造機造船監督官

機関大佐 網島伸之助

造船監督官

機関大佐 小野寺 繁

開會際列席諸官

艦政本部長 中 将 岡田啓介

艦政本部総務部第1課長 大 佐 谷口美真

特ニ必要ナル事項起ル際列席諸官

艦政本部総務部長 少 将 藤原英三郎

艦政本部第3課長 事務取扱 主計少将 永安晋次郎

艦政本部々員 中 佐 前原諒治

傍聴ノ為メ列席諸官

機関局々員 機関大佐 川路俊徳

軍需局々員 機関大佐 新田義雄

機関局々員 機関少佐 中尾金房

一、會議主裁者

艦政本部長本會議ヲ主裁ス、但慣例ニヨリ各造船部長ヲ部内現状報告後、艦政本部第五部長之代ル

會議日程

月日	曜	午前	午後
五月八日	月	大臣(伺候) 艦政本部長(口述) 各部長現状報告、第五部長(口述) 特別審議	諮問事項審議
九日	火	特別審議	特別審議
十日	水	天機奉伺、御座所拜謁、及各官邸伺候	特別審議
十一日	木	特別審議	各王欲附議希望事項審議
十二日	金	霞浦飛行場見學	
十三日	土	監督官卜打合也	
十四日	日		

五月 要港部修理場整備會議

人事打合せ

二、天機奉伺及御呈所拜謁

五月十日午前九時三十分 増井第五部長、各造機部長、
帶同參内、天機奉伺了り、攝政殿下、御座所拜謁
被仰付、次々各造機部長、各宮家、伺候上り

一、見學

五月十日 第五部長、各造機部長、清水出任、在京海
軍諸星下共ニ、霞ヶ浦臨時海軍飛行機練習所見學

一、懇講

五月九日 英國の千代社軍役 等、其の白子や成來有行

ヲ以テ列席者一同今氏ヨリ「最近ニ於テ艦船用補機」
ニ関スル談ヲ聴取セリ

一 岡田艦政本部長口述覺書 別紙ノ通

一 増井艦政本部第五部長口述覺書 別紙ノ通

一 各工廠及廣文廠造船部現状報告覺書 別紙ノ通

一 特別諸議々題及今夫識別冊ノ通

一 艦政本部諮問事項及之對スル各部ノ答申及今夫識別

冊ノ通

一 各工廠造機部附議希望事項及之對其他造機部
之關係部向意見之決議別冊通

0017

大正十年五月造機部長會議ノ際
艦政本部長口述要領

曩ニ工廠長ヲ上京セシメラレ臨時會議開催ノ節
本職ノ希望ヲ述ヘ置キタルハ既ニ傳承セラレタル向アラ
レニ此度諸官會合ノ好機ニ於テ聊カ述フル所アラレ
トス

一、御承知ノ通海軍々備制限ニ關スル條約ハ未ダ
批准ヲ經サルモ事實上實現ヲ見タル次第ナルカ
茲ニ大臣ノ御希望トシテ吾人ノ最モ留意スルキハ
條約ノ精神ニ悖リ列國ノ疑念ヲ醸スカ如キコトハ
好方メテ之ヲ避クルヲ要スルニアリ尚又軍備制限ノ狀

態ノ下ニ我海軍ガ勢力ノ優越ヲ維持セシカ爲メニ
ハ軍用諸品ノ精良ナルヲ要スルハ申述モナク之カ爲
將來ニ於テハ技術上一層ノ研鑽努力ヲ必要トス
諸官ニ於テモ此点充分考慮ノ上部下ヲ指導
セラレコトヲ希望ス要スル機關ノ整備ニ就テハ自
下其ノ筋ニ於テ詮議中ナリ

二 今後ニ於ケル艦艇建造豫定及職工問題ニ就テハ
工廠長ニ申述ハ置キタルカ造模部ニ於ケル毎年度
事業ノ按配利用ヲキ材料等ノ豫定其ノ他軍
艦ニ関スル事項ニ就テハ特ニ此ノ機会ニ於テ充分
打合セアラレコトヲ望ム

三 工場率ヲ事業部ニ属セシムルノ可否ハ臨時工
長會議ニ於テ討議セラルルカ尚右部長會議ノ

0019

四、改定ニ俟ツト、ナレリ此ノ席ニ於テ審議アリコトヲ望ム
軍備制限ノ結果艦艇造修豫算ハ從來ニ比シ
大ニ減少シタルニ依リ其ノ運用ハ將來甚シク困難ナ
リト覺悟セサル可ラス 工作廳各部ニ於テハ工事
費ノ節約ニ對シ特ニ一層ノ注意ヲ拂フト共ニ能
率増進ニ努キ俾テ努力アラシムコトヲ望ム
尚ホ會議ハ第五部長ヲシテ主宰セシム、充分
腹藏ナキ意見ヲ交換セラレ各種ノ審議ヲ盡
サシムコトヲ望ム

(終)



増井艦政本部第五部長

大正十二年五月廿九日 造船部長會議口述世見書

一 華府に於て止軍備縮小會議決議事項大體ハ各位ハ已ニ諒業
 セラル所ニシテ特ニ以反ニ噸々タル繁業ヲ避クニ本條約ヲ批准ヲ終リ
 実行ニ取掛ルヘキ時期ニ到ルハ今尚不明ナルモ實行セラルヘキ疑
 ナキ所ナリ此機會ニ於テ先以テ各位カヨク部下ヲ率テ其苦心慘
 膽從來ノ難局ヲ適當ニ處理サレタル勞苦ヲ謝スルト共ニ將來
 此時勢ヲ推移シ察シ而モ不測ノ危機ヲ慮リヨク之ニ應ズル様
 層一層奮勵トシ只憚ナキ進言トシ望マラルヲ得ズ尚此際
 特ニ附加ニ置度ハ過去半歲ニ亘リ當部トシテハ空前繁忙
 ナリ極ナル時代ニシテ各位ノ希望ニ副ガリテ上兵多クアリ華ハ

0021

察示スルニ難カラズ然レモ各艦ノ助カニヨリ漸次改善ノ域ニ進マシ
コトヲ期待シレバナルコトナリ

二主トシテ將來ノ工事ニ關スル大體狀況ハ次ノ通りナリ未ダ總ニ巨
詳細具體的ニ説明レ得ザルヲ遺憾トス

一〇七年度軍費支弁一般及雜船修理雜船製造機械等
一〇八年度ノモリニ比レ總額ニ於テ約一割五分減見込

一〇新艦建造ノ予定(口頭)

一〇石ニヨリ工廠潜水艦用主機械工事ノ予定別紙ノ通

一〇一七年度特定修理ノ予定別紙ノ通

一〇主力艦改修工事ノ針別紙ノ通

一〇六七年度建造海軍中型潜水艦主機械發動機等

損多キヲ以テ全部改正型ニ換裝シ又吸霧冷却装置直ニ
從來海水ヲ使用セルモノ油冷却装置直ニ並又使メ布望ヲ以
テ先般発動當時七隻又今油唧筒六隻今製造方依世保
額守府長官花訓令アリタリ故ニ上ハ所西女工廠ニ配
付スヘキモノ煩法取換方取計ハ年度

由十二年度水陸整備費建設費機械費ニ尚ホ決定域
ニ在リ

由十年度以降各工廠造機部所要職工數 別紙ニ通リ
本表ハ極々大體見込ナリ廣造機部工事ニ付テハ工廠
建造ノ新艦補機類ヲ主トシテ他ニモヨ適当ニ配分スル
テ是然ル時ハ航空機部ニ付テハ粗材供給ヲ別トシ先以テ

職工約九百名ヲ維持シ得ル見込但各造機部へ工業配分
ハ中央ニテ出来ル限リ注意スベキモ分割割令ノ不可能若
シハ種々不便ナルモノカレソテ他造機部ニ於テモ此ガ配分
才ニ關シ十分ノ配慮アリ度

以テ廢棄機處分大體方針ハ已ニ内報セリ但伊吹正利用ノ
關係上伊吹ヲ全部兵ニテ戰馬ヲ兵及佐世係ニテ處
分スル事ニ変更方ヲ希望シツカリ但レ他部ノ都合ニヨリテ
或艦上廢棄機處分ヲ全然若クハ一部私立公社ニ請買ス
ルハルニ止テヤモ知レズ公ニ直カレ度

案業艦ヨリ部外ニ提供スベキ教育用品處置關スル事
部ノ希望公報記内報中ニ掲ゲカレテ未ダ決定ニ達ス

0024

大若シ当部希望通り決定セラレタル時ハヨク部外学校等
事者ト協議シ出来得ル限リ彼等ニ便宜ヲ其ヘラレシコトヲ
希シラス

空襲業艦ニ對シテ敵工事ノ關係モアリ貯藏地面ノ
制限モアリ可成工敵シテ事者ノ裁量ニ任セ得ルヲ主眼トシ
テ立立未セルモノナリ詳細ニ且リテ尚ホ御意見ヲラハ兼知
レ度

空襲業艦ニ對シテ艦上トシテナスベキ実験ノ旨ニテハ当部ニ何等
特殊ノ復案ヲ有セザルモ目下計畫中水雷爆彈砲撃等
等諸実験ノ結果ハ造船關係事項ニ極メテ有益ナルヲ考
算料ヲ供スルニヨリ当部若シテ工敵造船部ニ員參事員トシテ

参加スルコトヲ希望シ、ソレ因ニ機關局ニハ重油火災ニ計スル
消防設備直効力ヲ實驗ヲ希望シ、下縣ニ事業中ニカリ

三 建造中止艦中

天城赤城ハ航空母艦ニ変更セラルコト決定ニテ上部所當手トシテ
ハ煙突、煙路、機械室、通風機械及全風路推進器及下部防衛用
板以上ノ外ハ原計畫通りニテ等々繼續中ナリ

旭算主任正安右高維ノ諸機械類利用法ニ關シテハ別表ノ通り
ナリ是レヨリ決定次第改メテ心安ノ圖ニ通知スルベシ、他ノモノニ計
スル利用法ニテキ衡意見ヲ示シテ示知シテ復此等諸艦ニ計シテハ
半製品及準備材料等ト共ニ統テ横須賀吳工廠ニ分割
送附スルコトナレバ、利用法ニ關シテ西工廠造船部ノ研究ヲ

希望ス

四職工失業救済問題ニ付シテ中央ニテモ研究セラルガ本件ハ他
諸官省ハ世論民間会社ニ付シテモ關係スル所極メテ大ナル以
テ慎重審議ニ必要アリ現任互迄ノ状況大略ハ如上ノ如シ
尚御意見アリハ承知シ度

五 造船方面ノ研究機關ニ從業特ニ貧弱アリテ感アリ故ニ此際一
層擴張必要モルハ必要ヲ認メ諮向ニモ特ニ掲ゲラレタルハ
案ナリ此部トシテハ別紙ノ案ヲ立テ提出セリ尚御意見見業
知シ度但シ本事業実行ノ緒ニシテ雖モ此ガ毎實際ノ効果ヲ
收ルニハ相當ノ年月ヲ要スルコト明ナルヲ以テ過渡期ニ付シテ本
案ノ^趣意ヲ出来得ル丈徹底スル所便宜^ト處置ヲ採ル外ナシ
左ニ參考ニ爲

訓令研究事項、要領 別紙通

各工做造機部等ヨリ提案、研究実験希望事項

要領 別紙通

六規格統一現状ハ在ニ速ク如ク術義ヲ通リ本件ハ極メテ廣

汎ニシテ關係スル所多ク尤モ周密ナル研究ヲ要スルハ學士ル

ヲ以テハ曾各位ハ助ヲ与ヘテ研究ス

材料物品規格及工業用品基本制式統一等ニ技術會議案

十分科会ヲ組織サレ本職之ガ會長タルソ、特別委員会

在リ通ル定ム

特別委員会(造船造兵規格統一)

大正十三年六月ヨリ十四回会合材料規格、通則試験(其他)

議了。目下（鋼材（鋼板形鋼））調査は進んで居
り、六二種（鉄鋼、鍛鋼等）は立案を以て決定

第二特別委員会（購買物品規格改正）

大正十二年三月一日公合に横須賀三六工廠より提出の
改正意見は其全千二十余种の物品規格を議了せり
（其三特別委員会（工業用品其全本制式統一）

大正十年十月ヨリ二回公合に螺絲三箇を調査し且ヨリ
（尚本調査は毎手二箇を以て一紙に九十五）

以上、材料物品規格及其全本制式ハ一方由最高事務官に於てハ
規格統一調査会に關聯スル所多キヲ、特別委員会ニ於
て議了シタル原案ナリ、如キモ尚訂正ヨリテ之ヲ決定スル

三 相当三歳月ヲ要スルモノナリ

此際ヨリミットトシテ之ヲ以テ二箇トシテ一言速ク旨直キント又本件ハ永

上ニ懸念案ニシテ一日モ早ク決定シ度キ事望ナルカ昨ノ五

月ノ各工廠並ニ種々長崎監督官ノ意見ヲ徴シ此ヲ綜

合シタルモ大略本ノ如ク故ニ尚十合ナル既完ヨリ要セズルモノナ

リ各位ノ立念見提申ヨリ望ム

内此規本ニ異議ナシ

四 白ガソリニ式採用ニ関シテハ大体ニ於テ異論ナキモ舊

水艦機関ニ現在ノ社式ヲ使用シツルカ現狀ナシ

トコハソリニ式ガヨリテ此ナラハルコトモ尋ノ理由ニヨ

リ尚ホ審議ヨリ要ス

八、國境沿線の治安維持に上海軍艦隊を以て全圖統一の要
七、米穀の採用法を改良し、米穀の増産を期し、本年夏
六、米穀の増産を期し、米穀の増産を期し、本年夏
五、米穀の増産を期し、米穀の増産を期し、本年夏
四、米穀の増産を期し、米穀の増産を期し、本年夏
三、米穀の増産を期し、米穀の増産を期し、本年夏
二、米穀の増産を期し、米穀の増産を期し、本年夏
一、米穀の増産を期し、米穀の増産を期し、本年夏

0031

次第ニ進ムルハ時期ヲ達シ得ル曙光ヲ認メタリ又口位ノ助
カヲ以テ而設メテト共ニ工做ニ於テモ各部連絡ニテ既完ス
ル如キ方法ヲ取テルハ三管好結果ヲ奏スベキカト信心ヲ存シ
マシテ尚此等機械ノ能率増進ニ對シテハ學理的及其实
際的ニ且リ機械圖々ノ性能ヲ知悉スルコト極メテ必要ナ
ルハ無論ノコトニシテ今工場ニ永年勤務セル部員以下ト
シテ此等三管ノ遺憾アル部下ヲ督勵セラレニコトヲ希
望ス

九 主トシテ計畫關係諸事項ヲ通リ

山城赤城ハ航空母艦ニ変更セラルトキハ排水量八三万
六千九百噸(燃料及予備水ヲ除キ)トナリ速力約三三節

増加、空機回部工事、大体ニ於テ、系計画襲用、予
定

四、陸軍大ニ於テ減速航行中低圧カハビ、機外社、電機、絶縁
ニ運転シタル成績ニ、燃燃料約一割、即約ヲ得タリ長門
ニ至全株、機外社電機ヲ設ケルヲ得策ト認メ、兵造機部
ト協議中

四、秋風級駆逐艦ニ於テ、数回正位管過熱、破損ノ故障
ヲ生シタルニ、鑑ミ研究、結果正位管降路管、必要ヲ
認メタルヲ以テ全級、各艦ニ此ヲ装置、且、今後各
由事完正ニシ、之ヲ設ケルヲ旨ニル

三、山手風級一等駆逐艦ハ高圧カハビ、即異、欠損外續

十二意 建七二二以二 請請 賀王 做三 訓令レニ六七年 年度 建
造 山釜 風出 風出 風出 島風 六風 羽風 濤風 七度 高圧 勿
北七二 請請 改造 中三 本年 二月 迄三 上二 宇ヲ 終ル 事 是ハ
七年度 以降 建造 七二 何レモ 異ハ 故障 欠損 ヲ 起セシ
七二 五二

0034

(ホ) 秋風級駆逐艦タルピン、滑風級、故障之鑑、若干、改正ヲ行ヒ
タリ、其要莫次、如シ。

高压ヲタルピン第二段落以下ノ翼中ヲ増シタルコト。

公 第三段落以下ノ仕切ヲ変更シ、噴口高ヲ及翼高

ヲ減シタルコト。

高压タルピン各翼中ノ強度並ニ撓度ヲ増加シタルコト。

低圧タルピン最後ノ翼中ヲ増加シタルコト。

以上、改正後公試運転ヲ行ヒタルニ成績良好ノ結果ヲ得其
後尚一層全タルピンノ強度ヲ確ルル爲特ニ補強質ニ於テ施
行セルト分ル汽走試験ニ於テモタルピンニ何等ノ故障
ヲ生セズ。

(ハ) 将来ノ巡洋艦及駆逐艦タルビニ各部計画ノ方針次ノ如シ

發生力量ノ増大ニ連リテ益々其重量ト増大ヲ来スガ故ニ之ヲ緩和スル爲メ相當程度ニタルビニ回転数ヲ増加シ之ニ伴フ各部材料ノ選定、震動等ヨリ起ル不測ノ災害防止ニ充分考慮ヲ拂ヒ而カモ從來遺憾ノ臭多キ低速經濟ノ如キモ更ニ増進セシメントスルモノナリ。

以上ノ問題ヲ解決スベキ爲メ左ノ要矣ヲ主眼トシテ計画ヲ進メントス。

翼速度ヲ高ノ段落數ヲ減ゾスルコト。

第一段落ニ不經濟ナル二列段落ヲ附セザルコト。

入力量ノモリナリテハ一個ノ親齒車ニ四個ノ兒齒車ヲ裝

備之減速装置ノ長サヲ減セントス

シヤフトトキヲ出来得ル限リ平坦ナラシムル目的ヲ以テ今後ハ

許ス限リ復水器ヲ低圧ニシタルビニ懸垂セザラシムル時ハ一方

關係部ノ振動ヲ甚ナカラシムルニモ効アリ

巡航速力ノ經濟ハ別箇ノ巡航「タルビ」ニ採リ圖ル事

「タルビ」各部ノ詳細計画ヲ更ニ吟味シ部分的ノ損失ヲ

逃減スルコトニ勉メ「タルビ」全体ノ効率ヲ良好ナラシム

ルコト

後進力量ニシキテハ「己」ニ再三意見ヲ徴シタル事アリ本年

度參謀長會議ノ議題ニモ加ヘラレテヤリ相當程度マデ

逃下セシメントス

(ト) 前記ノモノヲ實現スル上ニ於テハ裝置上ノ關係モ甚事
ナガラ基礎條件タルベキ各種材料質、震動、パイロスコ
ピックアクション等ヲ徹底セル研究ヲ必要トスベキハ無論工作法
ニ關シテモ尚ホ十分努力ノ餘地アルモノト認メ此等ニ對シ大ニ
力ヲ致サンコトヲ期ス

翼材料ニシキハ一部外國品ヲモ購入シ内地製品ノ進歩ヲ
促進セントシ球磨級輕巡高圧イタルビニ試用ノ目的ヲ以テ
獨國ハイゾラチオン社製ノモノ注文ヲ考慮中

遠カラス米突法ノ採用アルハ此ニ合ス翼及噴口ノ制式ニ
關シテハ目下研究中ナルガ尚將來ヲタルビニ計畫上ノ自信アル
根底ヲ樹立センガ爲メ翼型ヲ使用シテ噴口及翼ノ効率
ヲ檢定セントシ是工廠ニ實驗方訓令アリタリ

0038

(子) 過熱蒸氣ノ使用ハ一等駆逐艦ニ於ケル經驗ニヨレバ其成績
良好シテ尚ホ各國ノ趨勢ヲ見ルニ益々高温蒸氣採
用ニ傾ケルモノ、如ク之ヲ研究ハ勿クニスベカラザルモノト認メ過熱
器及耐熱材料ニ関スル實驗研究ヲ進メントス夕張以後ノ
輕巡ニ全部之ヲ裝備スル方針ナリ、

(四) 海軍式中型潜水艦ハ將未建造ヲ取止メ新クニ建造スルモノ
ハ高速大型潜(一五〇吨級) 巡潜(三〇〇吨級) 機潜(一五〇吨級)
及改良L型(屯数八八〇ヨリ九九八ニ増加セラレタルモノ) 主機械ニハ更
ナシニ限ル方針ナリ、主機械ハ高速大型ニ「ス」式ヲ用ヒ試験
ノ狀況ヨリテ「ハ」マン式ヲ併用スルコトアルベク、巡潜及機潜ニ「ハ」
式ヲ採用ノ豫定ナリ、
巡潜用三〇〇馬力 機潜用一〇〇馬力「ハ」式機械ノ製造権獲

(又) 得方ニ関シテハ目下川崎造船所ニテ交渉中ナリ。
「ロイタリ」式補助機械ノ研究ハ益々其必要ヲ認ムルニ至リ

クルヲ以テ此種機械ノ一掃威タルコトアラウンホベリト社ニ給水
唧筒一台ヲ注文シ横須賀工廠ニテ實驗研究ヲサシメント
シバニ訓令済

(ル) 前年度會議以降建造決定ノ艦船ハ那珂級(輕巡)三隻、

夕張(輕巡)一隻、執勢多級(砲艦)四隻、掃海艇三隻、迅鯨級

水母三隻、一等駆逐艦二隻、L型潜水艦三隻、給油船三隻

給糧船一隻ナリ、夕張執勢多、迅鯨及給糧船外ハ已

成各艦ト全型ニシテ多少ノ変更ヲナシタルニ止マル右ノ内

給糧船ヲ除ケル三艦ノ要目ハ別紙ヲ通り給糧船ノモハ

未定

以上特務艦ノ罐ハ柯シモ水管式ヲ採用セシガ將來此
 方針ニ進ム豫定ナリ、尚テ給油船ノ為横須賀及吳建造
 ノモノハ罐及補助機械共可成廢棄艦ノモノヲ使用シ、私立會
 社ニテ建造スル水雷母艦及給糧船ニモ出資得ル限リ建
 造中止艦ノ諸材料ヲ利用スルコトニ豫定シアリ、

一〇一般推進機関進歩發達ノ現状及趨勢別紙ノ通り

一一艦船ノ行動ニ支障ヲ生ズル機関ノ故障ヲ惹起シ此ガ檢
 査ニ立合タル場合ニハ當部宛其概況ヲ電報シ、繼テ其
 狀況原因修理ニ対スル着手法ニ豫定期日ヲ通知アリ度

一二大正五年九月廿日艦政三第百五九號ニヨル特定修理費整理
 区分ノ件ハ當部ニ於テモ必要アルニツキ引續キ送附
 リ度

一三、軍備縮少後工作廳各部ニ於テ平戰兩時ニ區別シ利用
スルキ部外工場全生産品ノ概要其他利用ニ関スル意見
ヲ知度軍需局ノ希望ナリ本件ハ工業動員ニ關聯シ尤
モ必要ナル事ニ屬スルヲ以テ此ガ調査ノ要求アリタル際ハ十
分助力セラレシメテヲ希望ス。

一四、本年度造機部長會議ニ對スル諮問事項答申 附議希望
事項及此ガ意見ノ提出時期ハ例年ニ比シ好成绩ナリト認
ムモ尚ホ改善ヲ期スル爲メ来年度ハ諮問事項ノ發布期
目ヲ一層繰上グル豫定ナリ本年度ニ於テハ用紙ノ制定等
幾分從來ノモノニ比シ変更セリ此等及本會議進行上ノ
全般ニ亘リ御意見ヲ承知シ度。

0042

一五、終ニ婦ニ本會議ノ尤モ重要ナル任務ハ軍備縮小ノ前後
策協議ニアリ故ニ已ニ決定セル諮問事項ノ審議ヲ終ルハ
直チニ別紙配附ノ議題ニキリ特別審議ヲ開カントス特ニ腹
藏ナキ意見ノ交換ヲ切望ス。

添付書類

工廠潜水艦主機械工事割當豫定

十一年度特定修理ニ関スル覽書

主力艦改造之方針附主力艦改造諸機械等概要表

各工廠造船機部所要職工数

建造中止艦ヨリ利用シ得ベキモノ

研究機関ニ関スル件

(終)

現在訓令研究事項ノ要領

各工廠造船部等ヨリ提案ノ研究實驗希望事項

要領

米英法露施ニ関スル件

夕張勢多迅鯨機関部要目

外國一般推進機関進歩發達ノ現状及趨勢

特別審議事項

0044



五、敵潜水艦主機械工事割當豫定

一、主機械工事ノ合擔

横須賀、吳、佐世保ニ分配スルキ工事ノ大体方針ヲ左

ノ通り定メントス

横須賀 〆式三千馬力 着々〆式三千馬力

吳 〆式千二百馬力

佐世保 〆式三千馬力

目下横須賀ニ〆式三千馬力一隻分(六四號用)製造中

ナカ将来モ〆式製造ニ當ラントス若シ海軍建造ノ

大替ニ〆式三千馬力ヲ採用スル場合ニ〆式ノ製

造ハ横須賀ヲシテ當ラントス之ニ本機械ノ運轉保

管等ニ関シ從來横須賀が最ニ關係深キヲ以テナリ

一三四二六

0045

次ニ機潜用「マシ」式千二百馬力ノ製造ハ吳ヲ充テントス
之レ吳ハ獨特機械ニ關係セル外機潜ノ建造所ナルヲ
以テナリ

次ニ佐世保ニ於テハ專ラ「ズ」式三千馬力ヲ製造セシム佐世
保建造ノ大藩ニ充當シ又必要ナラバ吳建造ノ大藩
用ノ機を製造セシムルコトニ及 若シ假リニ現部函ノ大
藩ガ「マシ」式採用ノコトニ決マル場合アリトモ佐世保ニ
於テハ「マシ」式ヲ製造スルコトヲ主張スル必要アリ之レ
將來艦型増大シ三千馬力以上ノ艦ヲ要スル場合ニハ「マ
シ」式ハ殆ンド望ミナク唯「ズ」式ノ一ニ充テ之レニ應スルヲ
得ルヲ以テ「マシ」式三千馬力ノ製造研究ハ決シテ断絶

ナリサレバ以テナリ

二 建造豫定表

別表ノ通りニシテ未訓令ノモノハ大潜九隻、機潜二隻
ニテ其内大潜二隻宛ヲ横須賀及佐世保ニ分配シ
他ハ吳建造トス。然レ長主機械製造ノ前項ノ方針
ニ依リ横須賀ハ「ガ」式三千馬力兼「マ」式三千馬力
吳ハ「マ」式千二百馬力、佐世保ハ「ガ」式三千馬力ヲ担
當スルコトトス。従テ吳建造ノ大潜用主機械ハ凡テ
廠外製不造、モ「マ」充當スルコトナリ。現在吳ハ訓令セ
ル七十八號主機械ノ工事未着手、俟中止中ナルヲ以テ
之ヲ佐世保ハ訓令換シ本年度中ニ着手シ度ヲ豫
定ナリ。

次ニ四十四號型大潜ノ就テハ三隻一隊ノ主義トスレバ尚ニ
一隻ノ新造ヲ要ス。之レハ主機械ノ建造取止ノ6061號

及 48 49 號 千三百馬力主機械ヲ充當ス 別表中 A
B 即チ之ナリ 着レニ隻一隊ニ止ルル場合ハ B 對シ
テハ C 式又ハ D 式何レカハ決定ニ據リ 佐世係又ハ
横須賀ニテ製造供給ス

0048

年度	横須賀	吳	佐世保
十一年度	(六式六四号用主機械)	五号	(吳訓令78号佐世保)
十二年度		大潜(五号改良型)入社論文	大潜(六式)
十三年度	大潜(六式)	大潜(四号改良型)	大潜(吳用六式主機械)
十四年度	大潜(六式)	機潜(六式)	大潜(六式)
十五年度	大潜(六式)	機潜(六式)	大潜(六式)
十六年度		機潜(六式)	

(註) 点線ハ主機械工事
海員線ハ起工竣工期間ヲ示ス



艦政本部第五部(二四二四)

大正十一年度特定修理ニ関スル覚書

艦名	修理事項	記
第二十五駆逐隊 (松、柏、柳、杉)	主甲板部入換、機関總檢 查、船体部修理	十一年度繰越(工事) (板在係ニ割令布)
平戸	不良箇所入換、機関總檢 査、船体部修理	
最上	右	本方艦改造ノ為ニ決定シ本年 特定修理費使用差支ナキ見込 ナリ
淀	右	次募訓令發布ノ年統ラナク予定
浦風	右	

備考、右工事ハ各艦ノ所轄ニ顧慮セズ各工廠ニ相当配布シ
度希望ナリ



艦政本部第五部(三、四、二四)

主力艦改造工事方針(予定)

一、金剛、榛名、比叡、霧島

現在三十五年内三十四年陸揚、油専燒並六年新裝、附帶

トシテ補機、管装置、煙突煙路ノ改造ヲナス、今時ニ特定

修理施行

一、扶桑、山城

現在裝備ノ軍面八年ヲ残シ他並陸揚、油専燒並四年ヲ

新裝、附帶トシテ補機、管装置、煙突煙路ノ改造ヲナス、今

時ニ特定修理施行

一、伊勢、日向

現在裝備ノ三十四年中六年ヲ陸揚、殘存十八年中十二並ヲ

油専焼缶ニ改造附帯トシテ補機、管装置、煙突、煙路ノ改
造ヲナス、今時ニ特定修理施行

一長門陸奥

一煙突、煙路ノ改造

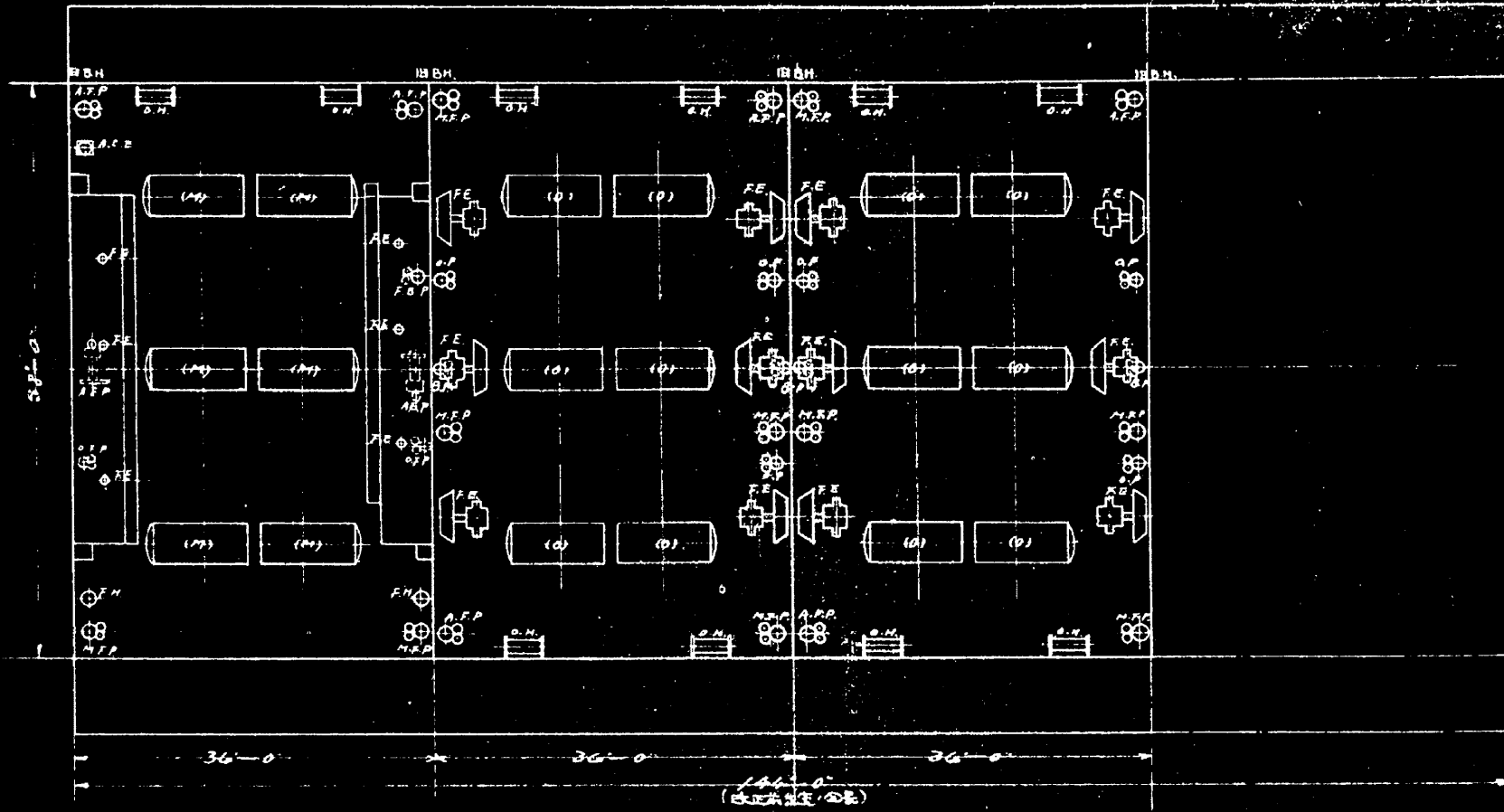
備考

一、本工事ハ出未得ル限リ新造中止艦材料ヲ流用スルニトス

二、工廠設備ノ關係上巡洋戦艦工事ハ横須賀工廠ニテ

戦艦工事ハ吳工廠ニ施行ノ予定

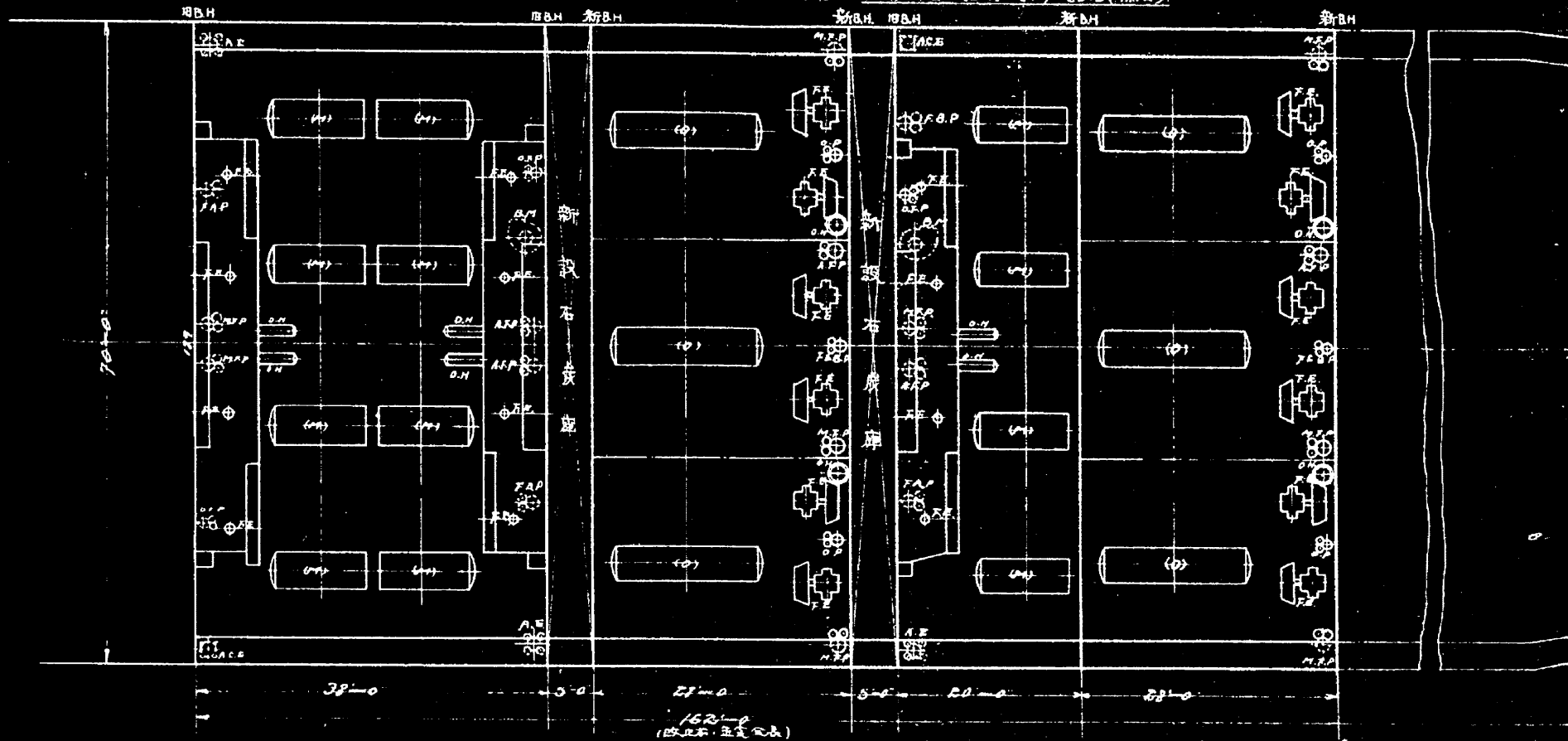
伊勢級



0053

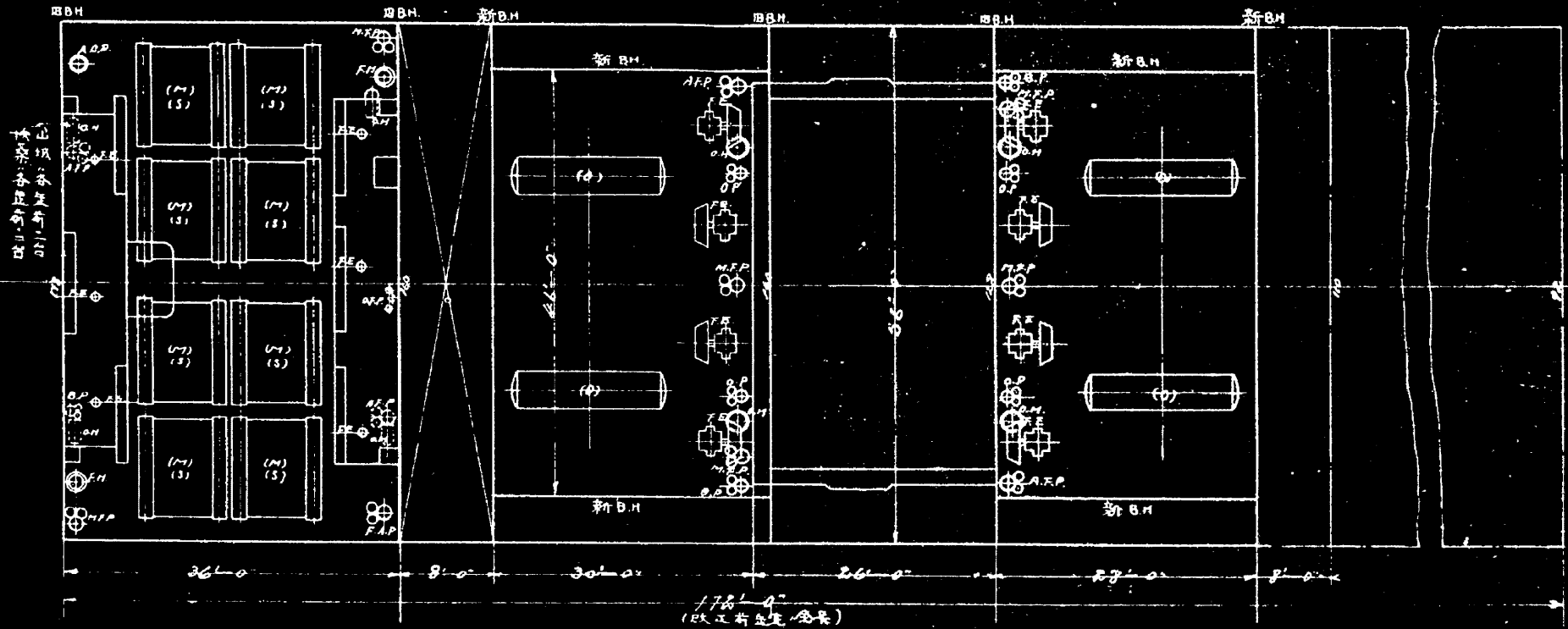
金剛系

AE...金剛系西線
F.B.P. 四台・加算・メモリ入レリ(標名)



0054

扶 桑 殿



0055